※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１４

令和５年度　地理歴史科

教科	社会科	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	歴史総合「近代から現代へ」　（山川出版）						
副教材等	新詳　歴史総合　（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日本を大陸と離れた「島国」としてではなく、世界の中の日本としてとらえよう。
さらに、現在の問題がなぜ生まれてきたのを、時間的・空間的な視点も含めて考えよう。
「歴史は暗記科目」とよくいわれるが、暗記も大事である。考える糧としての「知識」を使って、何故、何のために歴史的事項が起きたのかを推測・考える力を養うためにも、基礎的事項はしっかりと復習しよう。

2　学習の到達目標

(a) 近現代の歴史に関わる諸事情について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解することができる。
(b) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを多面的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、議論したりすることができる。
(c) 近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を持つ。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	現在の国際問題が何故起きているのかを理解しようとしている。また、地理的・日本史的事象との関連も意識している。	世界史を学びながら日本史的・地理的事象との関連性を含めて多面的に考察し、現代社会の変化を公正に判断して、歴史的経過・結果や自らの意見を適切に表現できている。	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め、論理的に追究する意欲を持つ。また、国際社会で責任を持って行動できる、日本国民としての資質を形成している。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	近代化と私たち	産業革命 アメリカの独立 19 世紀の欧州 19 世紀の米大陸	a:産業革命を起こした発明とその影響を理解している。 b:産業革命によって、世界がどう変わったのか、その理由を理解しようとしている。 c:産業革命の影響を経済面以外からも考察しようとしている。	定期考査	レポート 定期考査	グループワーク 定期考査
2学期	国際秩序の変化や大衆化	アジアの植民地化 中国の開国と日本の開国 第一次世界大戦 ロシア革命	a:アジアが植民地化されていく過程を理解している。 b:列強が帝国主義政策をとったことで、世界がどのように変化したかを考えようとしている。 c:帝国主義がもたらした戦争の結果を多角的に考察しようとしている。	定期考査	レポート 定期考査	グループワーク 定期考査
3学期	戦後の国際秩序	アジア･アフリカの民族運動 大衆の政治参加 世界恐慌と第二次世界大戦	a:第一次世界大戦後の民族運動や社会主義運動の過程を理解している。 b:世界恐慌後の全体主義の台頭の過程を考察しようとしている。 c:悲惨な戦争を、加害者や被害者の立場だけで捉えるのではなく、多角的な視点から考えようとしている。	定期考査	レポート 定期考査	グループワーク 定期考査

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度